

釧路市教育委員会 令和2年第27回10月定例会会議録

- 1 日時：令和2年10月23日（金）13時30分から14時35分まで
- 2 会場：釧路市教育委員会室
- 3 出席者
岡部義孝教育長
（教育委員）
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員
（事務局）
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、
江縁学校教育部次長、高嶋学校教育部次長、工藤生涯学習部次長、
及川総務課長、富田総括指導主事、澤口生涯学習課長
- 4 議事録署名人 松尾委員、種村委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 第72回釧路市芸術祭の開催について
- (2) 学校の現状について

【公開案件】 報告事項

(1) 第72回鉏路市芸術祭の開催について

(澤口生涯学習課長)

本年度で72回目を迎えた鉏路市芸術祭は、生涯学習センターをはじめ、コーチャンフォー鉏路文化ホール、鉏路市中央図書館、道立鉏路芸術館などを会場に令和2年10月10日(土)から11月3日(火)までの期間で開催している。

鉏路市芸術祭は、さまざまな分野の芸術文化活動が一堂に会し、芸術文化の創造と発展を目指して、各団体が日頃の成果を発表する場であり、相互に交流する場のほか、多くの市民が優れた作品等に触れる機会として、地域の芸術文化の発展に大きく寄与している。

昨年度は30団体の参加のもと、来場者は約1万1千人であったが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、公演を予定していた半数の団体が中止とせざるを得なくなっているなか、鉏路市文化団体連絡協議会が中心となる鉏路市芸術祭実行委員会の皆さまにより、その救済措置を兼ねて、自主公演は難しいながらも少しでも発表の場を求める団体が集まり、令和2年10月31日(土)と11月1日(日)の2日間、無観客によるオンライン配信形式にて、「スペシャル OH! 演プログラム 2020」を開催する予定である。

これは8月定例教育委員会でご承認いただいた9月補正予算の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」による社会教育施設Wi-Fi環境整備費において導入した、生涯学習センター大ホールのWi-Fiを活用することにより、コロナ禍における無観客ライブ配信が可能となるものである。

日舞や太鼓など、令和2年10月31日(土)に4団体、11月1日(日)には5団体の発表が鉏路市芸術祭のユーチューブチャンネルで配信する予定となっており、コロナ禍にありながらも、新たな手法も取り入れて開催することは、鉏路市の文化芸術の振興に大きく寄与するとともに、まちづくりを進める上での大いなる原動力につながるものと確信しているため、多くの方々にご覧いただければと思う。

このほか令和2年11月3日(火)まで、コロナ禍にありながらも、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするとともに、創造力を育み、心豊かな活力ある社会の形成に大きく寄与する、芸術の秋にふさわしい、新しい企画のなかでの「鉏路市芸術祭」が開催されており、教育委員の皆さまをはじめ、多くの市民の皆さまのご参加をお願いし、ご報告とする。

◎これらの報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

感染対策についてはどのように行っているのか。

(澤口生涯学習課長)

市教委としては国及び北海道の基準に基づき、対策を行っていただくよう指導している。基本的には一席ずつ空けるが、大声を出さないなど催しの内容によっては満席も可能であるためそれぞれの主催団体の判断で対応している。

【公開案件】 報告事項

(2) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

10月の定例校長会議においては岡部教育長の2期目の課題について校長先生方にお話した。

1点目は「釧路市教育推進基本計画」の後半に当たり、目標達成のために重点的に課題に取り組む時期になること。

2点目はGIGAスクールの実現に向けた重要なスタートの時期になることを説明した。

2点共に釧路市教育にとって極めて重要な時期になり、課題を積み残すことのないようお願いした。釧路市教育推進計画の数値目標については次回詳しく説明する旨も伝えている。

次に、9月定例教育委員会での「学校行事の実施についての感謝」についてお伝えした。

続いて、総務課給食担当から令和3年1月6日(水)～8日(金)の3日間について給食の提供ができないとの連絡があったので、そのお詫びをした。校長会に確認したところ、授業時数や進度に影響がないとのことであった。

GIGAスクール構想については、9月定例教育委員会で配布した資料を配付し概要を説明した。このGIGAスクール構想については、先日の校長会との意見交換会で「詳しい説明がほしい」とのことであったので、今後は総務課と連携して最新の情報を校長会に提供していきたいと考えている。

またGIGAスクール構想の実現に向けた校内研修について、まだ、校内ネットワーク環境や端末の環境が整っていないが、現状の環境で可能な研修を行う旨お伝えした。既に令和2年10月12日(月)から令和3年1月15日(金)までにすべての学校を指導主事が訪問する。導入されるタブレット、学習支援ソフト「ロイロノート」についての説明や実演を行い、授業での活用についてイメージをもってもらいたいと考えている。

デモ機が入った段階で2回目の研修を行う予定になっている。

次に学力向上プランの進捗状況の確認についてである。昨年度改訂した釧路市学校改善プランの検証改善サイクルでは、1学期中に学校訪問を通して実施状況を確認することになっていた。しかし、今年度はコロナの影響と教育局の1次訪問が1学期に行わなくなったことから、学習進度が落ち着いたこの時期に進捗状況を確認させていただくために学校訪問を行っている。

令和2年10月12日(月)から11月19日(木)までにすべての学校を訪問させていただき、予定していたがコロナの影響で実施できなかった取組、途中からでも実施できた取

組、12月の釧路市標準学力検査に向けた取り組みについてお話を伺う。

続いて、学校における働き方改革について、道教委では働き方改革が最重要課題になっており、同時に教職員の中には働き方改革で負担軽減を主張する声が多くある中で、仕事で負担に感じることを働き方改革と言って安易に削減するということが心配であったため校長会にてお話させていただいた。

例えば、全国学力・学習状況調査の結果の採点や分析、授業でのタブレット端末の活用など教職員の本来業務にもかかわらず削減を要求する声がある。

また、釧路教育局では教頭候補者を増やすために教頭職の仕事について軽減するための話し合いが進んでいるようであるが、その中で、教頭先生が負担に感じている項目の一つとして「学校だよりの町内会への配布」ということが上げられていた。

釧路市においては「域校連携協定」が結ばれており、単純に負担だから配らないということにはならないので、どのように工夫して効率よく配付できるか考えてほしいと説明した。

このように校長先生方には、この働き方改革は「休み方改革」ではなく、組織としてどのように業務を見直し、効率化、簡略化、そして廃止するのかを、成果を上げている学校の取組を参考にすようお願いした。特に、管理職として教職員の本来業務は何かをしっかりと考えてほしいとお願いをしている。

最後に、連絡事項として昨年度に引き続き教職員を目指す学生を増やすため、高校3校から教員を希望する高校生をインターンシップとして小中学校での受け入れをお願いした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

働き方改革の件については、教頭自身が学校だよりの町内会への配布が負担であると感じているということか。

(大山教育指導参事)

この意見は釧路教育局の会議の中で、教頭職が負担に感じている部分としての項目にあったものであるが、学校経営訪問等で実際に話を聞いた中でも教頭自身がそのように感じているということが一部あった。

(岡部教育長)

現在、釧路教育局において管理職育成方針を作成しており、メンバーに市教委、校長会、教頭会も入り議論しているところである。現在、地域と学校との連携を掲げさまざまな取り組みを行っている中、地域との接点を失うことにならないか疑問を感じている。

(山口委員)

学校だよりを配らなければいけないと思えば負担に感じるが、地域の窓口となる町内会と接点を結べるチャンスでもあると思う。地域に教頭の顔を見せる機会として有効であるという受け止めをしてほしい。負担だからと捉えてしまっただけでは、地域と一体となった学校経営を

目指す管理職にはなり得ないのではないか。

(種村委員)

高校生のインターンシップについてはこれまでも実施していたのか。

(大山教育指導参事)

道教委が昨年度、試行的に釧路市で行ったものを今年度全道的に実施するものである。

(種村委員)

学校においてどのような活動をするのか。

(大山教育指導参事)

授業中に子ども達がわからない部分を教えるなどのサポートや休み時間に子ども達と遊んだり、一緒に給食を食べたりし、楽しい時間を過ごすことで教員になりたいという気持ちを育てたい。

(山口委員)

一日だけなのか。

(大山教育指導参事)

3日間である。

(岡部教育長)

先日、秋田県大館市の教育長からお話を伺った際、大館市も同様の取り組みを10年以上行っているとのことだったが、昨年くらいからようやく効果が出てきたと言っていた。釧路市においても効果がでるのはまだ先になると思う。